

令和4年度 宮崎県立日南くろしお支援学校 学校関係者評価

4段階評価 「4…期待以上である」「3…ほぼ期待どおりである」「2…やや期待を下回る」「1…改善を要する」

評価項目	評価指標	学校の自己評価コメント	自己評価	R4保護者評価	学校関係者評価	学校関係者評価コメント
1 小・中・高一貫した教育	① 児童生徒が意欲的に学校生活を送ることができるよう、小・中・高一貫した教育課程の充実を図っている。	○ コロナ禍ではあったが、学習形態や内容、行事の在り方を工夫し、子供たちが生き生きと学べるような学習保証を図った。小中高一貫した教育課程が展開できるように「くろしおの学び」を整理し、実践している。今後も充実を図っていく。	2.8	3.5	3.6	・生徒一人一人に寄り添った教育を実践していることがよく分かった。
	② 発達段階に応じた小・中・高一貫したキャリア教育の推進を図り、将来の自立と社会参加に向けた力の育成に努めている。	○ 学部間の連続を図るために、児童生徒が他学部の学習参観や作業学習へ参加する機会を設定している。風田くろしお販売祭では各学部の発達段階に応じた製作や販売、交流、買い物を行うことができた。更なるキャリア教育と進路指導の充実にも努める。	2.9	3.4	3.4	・コロナ禍で制限のあるなかの運営は大変かと思うが、先生方の環境づくりが良いおかげで、子供たちがのびのびと生活を送っている様子がうかがえた。今後、子供たちが社会での生活を少しでも充実したものにしていくためにも、校外での学習の場を戻していくと良いと思う。
	③ 「個別の教育支援計画」や「個別の指導計画」に基づいた指導を実践している。	○ 保護者との連携や共通理解を深め、個別の指導計画や教育支援計画を活用しながら教育活動を行うことが定着してきている。今後も面談等をとおり、目標設定や評価のフィードバックを行っていく。	3.1	3.4	3.8	・職員の頑張りがよく見えている。
	④ 高等部卒業後の自立と社会参加を推進するため、それぞれのニーズや障がいの状態に応じた職業教育に重点を置いた職業コースの研究を推進している。	○ 高等部職業コースの実施に向けて、校内体制を整備した。企業との連携を深めるために、定期的な校外実習を取り入れたデュアル教育システムを試行した。本格実施に向けて、高等部や委員会を中心に細部の確認を行っていく。	2.9	3.3	3.3	・日南陽祭は楽しく見せていただいた。一般の高校よりも感じるものがたくさんあった。
	⑤ 児童生徒や保護者の願いを理解し、主体的・対話的で深い学びの実現に向けて効果的な教育の充実を図っている。	○ 児童生徒や保護者のニーズを生かした指導に努め、指導と評価の一体化を継続している。一人一人が主体的に生き生きと学べるように、教材教具の開発や活用に努めていく。	2.9	3.4	3.3	・地域の伝統的芸能を取り入れての実践は特に素晴らしい。
2 多様な学びに応じた専門性に	① 児童生徒一人一人の実態把握を行い、目標達成に向けた「授業力」の向上を目指している。	○ 児童生徒の事象把握を丁寧に行うとともに、引継ぎを重視することで、切れ目無い指導の定着を行った。今後も研修や授業研究をとおり授業力の向上を図っていく。	2.9	3.4	3.3	・風田神楽への取組が素晴らしく、指導者の方も上達がすごく早いと話しておられた。一生懸命さを感じた。
	② 本校の課題を踏まえて校内研究及び職員研修の充実を図り、専門性向上に努めている。	○ 特別支援教育における専門性向上と、様々な課題に対応し解決する力を高めるために研修の充実を図った。今後も計画的に研修を実施していく。	3.0	3.2	3.3	・風田くろしお販売祭のビデオを見て、子供たちがいきいきと笑顔で対応していて、すごく良かった。
	③ 児童生徒の多様なニーズに応じるための専門性の向上を目指し、自立活動の指導の充実を図っている。	○ 児童生徒一人一人の実態を把握し、障がいの特性を踏まえて、生活や学習上の課題に即した指導の充実を図っている。今後も自立活動における流れ図の作成や活用を図っていく。	2.9	3.3	3.6	・地理的に津波が発生したとき、波に飲み込まれるリスクも高いが、その中でできることの訓練を実践しているので安心した。ただ、災害には「まさか！」「こんなはずではなかった」というような想定外のことが発生します。引き続きの訓練と、想定外を予測した訓練に取り組んで、子供たちを守ってください。地域にある我々の資源もどうぞ活用ください。
	④ 児童生徒の情報活用能力の向上を目指し、ICT機器を活用した教育活動を推進し、専門性の向上に努めている。	○ 校内研修でICT活用をテーマに掲げ、外部講師を招聘した研修や校内講師の活用、各学級や保健室、授業での実践に幅広く取り組んだ。児童生徒も自発的に活用する姿が増えてきた。卒業後の自立と社会参加につなげていきたい。	3.2	3.3	3.7	・社会に出た時に困らないように、たくさんの経験を子供たちに積んでもらい、できたら失敗を繰り返し、起きさせる力、回復力をもって卒業してほしい。そのためにも、先生方の豊かな心が重要だと思います。
3 安校生・安全な学	① 新型コロナウイルス感染症、巨大地震や津波、緊急時搬送、不審者等の様々な危機に対応できる危機管理体制の充実を図っている。	○ 新型コロナウイルス感染症の感染については、国や県の方針に基づいた感染症対策を徹底し、感染拡大防止に努めた。緊急搬送等の各種マニュアルに基づいて、緊急時にも素早く連携して対応することができた。今後も不測の事態に備えていく。	3.0	3.3	3.3	・就労についての情報を多くいただきたい。個々のレベルはあると思いますが、働ける職場環境を検討したいと思っています。
	② 様々な状況を想定した防災・避難訓練や、児童生徒の実態に応じた計画的・継続的な防災教育の充実に取り組んでいる。	○ コロナ禍においても地震・津波・火災等の避難訓練や保護者への引渡し訓練を行うことができ、非常時に備える体制を取ることができた。児童生徒や保護者にも防災の意識が高まってきている。今後も継続していく。	3.1	3.4	3.4	
	③ 防災備品の整備を進め、安全・安心な環境整備を計画的に推進している。	○ PTAでの防災に関する取組を九州地区特別支援学校知的障害教育校PTA連合会宮崎大会で発表した。児童生徒と一緒に非常食の点検や喫食を行うことで、防災意識の向上につながった。新規で発電機や衛生用品、消耗品等を購入した。	2.9	3.3	3.4	
4 がる学校	① 医療・福祉等の関係機関や地域の資源・人材と連携した教育活動を推進している。	○ 感染症対策を講じながら、オープンスクールや各種行事、会議を行い、外部関係機関との連携を深めた。風田地区の協力を得ながら風田神楽を日南陽祭や高等学校総合文化祭で披露し、文化の継承に努めた。	2.8	3.2	3.6	
	② 地域の小・中学校や高等学校との交流及び共同学習の充実を図っている。	○ 小・中学部では居住地交流と2校の小中学校との交流及び共同学習を直接または間接的に行うことができた。高等部では南那珂地域の全ての高等学校と交流及び共同学習を直接的に行い、昨年度よりも活発な雰囲気醸成している。	3.0	3.3	4	
	③ 南那珂地区における特別支援教育のセンター校として機能を強化するとともに、地域の特別支援教育の充実にも努めている。	○ 各校からの要請に応じて、こども支援部のコーディネーターを中心に訪問を行い、相談対応を実施した。今後も地域の児童生徒への支援を充実させ、センターとしての役割を果たしていく。	2.9	3.2	3.3	